



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ!

ワークシート

斜里バス ヤマトの荷物運送

「貨客混載」町中心部一ウトロで開始



町中心部からウトロに向かうバスに宅配物を積み配達員

収益力向上／配達業務を効率化

【斜里】町中心部一ウトロ間で、斜里バスと宅配大手ヤマト運輸が連携し、路線バスに宅配物を乗せて運ぶ「貨客混載」が今年から始まった。約8カ月がたち、収益力向上や業務効率化といった成果が現れており、両社は今後、取り組みを拡大する考えだ。

「今日の荷物は一つです。7日、斜里バスターミナルウトロまでお願いします。」（港町）にヤマト運輸のトラックが訪れ、配達員が荷物が入ったバッグ一つをバス車両下部のトランクに積み替えた。

この便は午後4時発のウトロ行き。ヤマト運輸斜里営業所がウトロ地区に届ける荷物の一部を斜里バスが代わりに運ぶ。バスの運転手は荷物の数や種類を確認し、乗客とともにウトロに向けて出発。荷物は斜里バスターミナルで待機するヤマト運輸の配達員に引き継がれる。

同じ町内でも、中心部とウトロ地区は約40分離れている。ヤマト運輸は人手不足で配達員が限られるため、昨秋、斜里バスに貨客混載について相談。1月の契約締結以降、乗車率が比較的低い夕方便での混載便の運行を始めた。現在、1カ月に約150個の荷物を運送する。

「双方にとってメリットが大きく、ウィンウィンの関係にある」。斜里バスの井南鉄樹常務取締役とヤマト運輸斜里営業所の工藤治所長は口をそろえる。斜里バスは路線バスの乗客以外の収益源を確保。ヤマト運輸は配達員の効率的な配置に加え、燃料費などの経費節約にもつながっている。

宅配の時間を考慮し、斜里バスは4月からの夏ダイヤで、午後4時40分発の便を40分早めて同4時発に変更。工藤治所長は「同じ区間を走行する事業者が手を取り合うことで、排出ガスの削減など環境への配慮にもつながる」と連携強化の意義を強調する。

両社は今後、都市間バスの貨客混載も検討する。ヤマト運輸は斜里の荷物を北見市の事業所に集約するため、主な配送先の札幌をはじめ道内外への配送に時間を要する。しかし、斜里バスの1日1便あるウトロ・斜里―札幌間の都市間バスを活用すれば、札幌など遠方への即日配送が可能になるという。井南常務も「前例にとらわれず、事業者同士の連携で付加価値を生み出していきたい」としている。

（佐藤海蔵）

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

『北海道新聞』 2023年8月25日（金）朝刊（北見・オホーツク版）

(1) について、次の①、②に答えなさい。

① バス会社(斜里バス)は、荷物運送の経路のうちどの区間を担当していますか。具体的に説明しなさい。

② 路線バスに宅配物を乗せて運ぶことは、バス会社(斜里バス)にとってどのようなメリットがありますか。

(2) 両社は、今後どのような連携を新たに検討していますか。現在の方法から変更することの利点も合わせて説明しなさい。